

# いつまでも地域で暮らしたい

= 結の実践から学んだこと =

---

いつまでもこの町で暮らしたい

特定非営利活動法人 ちくほう結

事務局長 鈴木 栄子



## <本日の発表内容>

1. 所属する組織について
  - ①活動地域の紹介と課題
  - ②法人の理念と事業概要
2. 介護系NPOとして地域での活動報告
  - ①シェアハウス開設までの経緯
  - ②事例報告①
  - ③事例報告②
3. 地域共生社会の実現に向けた課題・提言

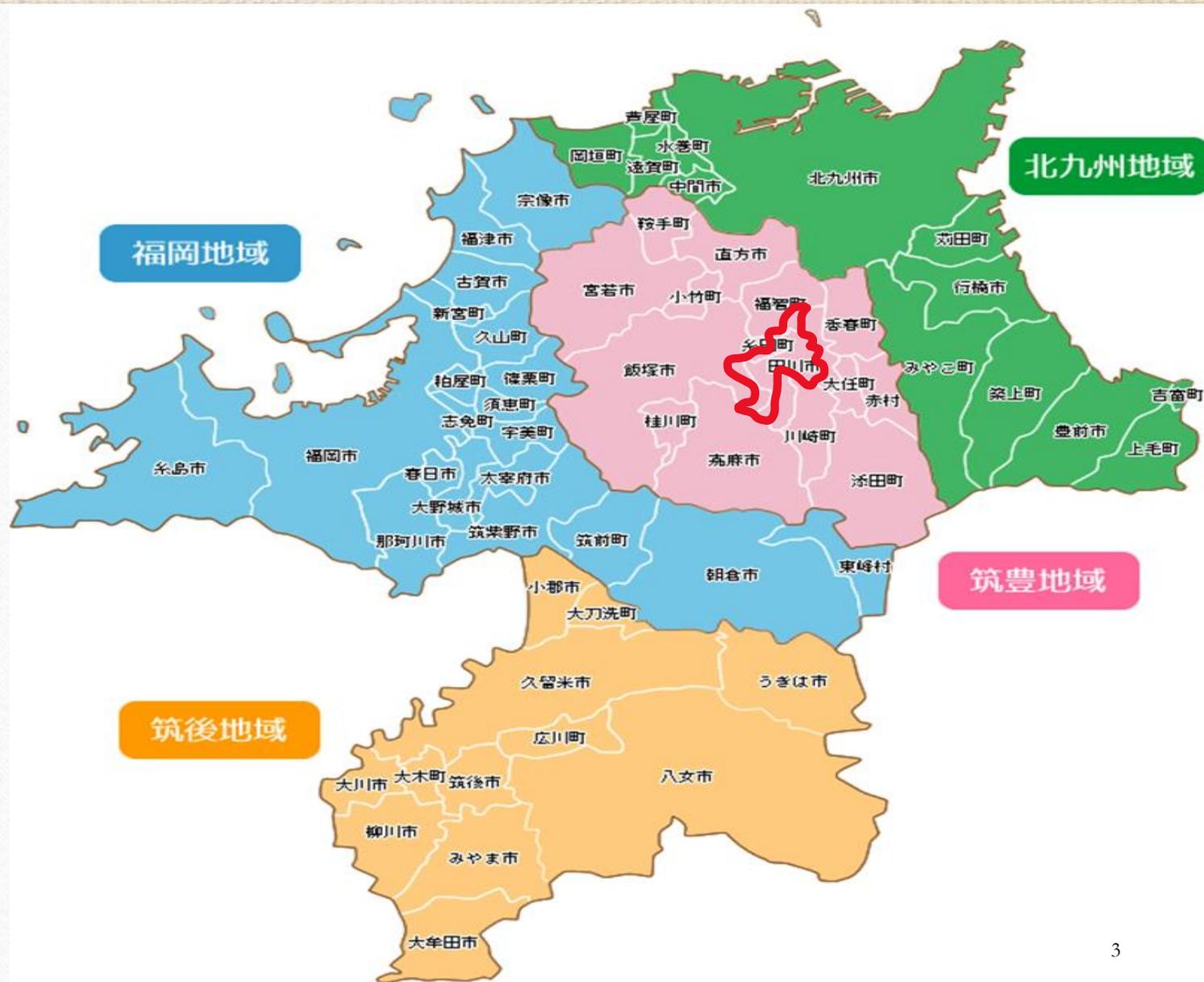


## 田川市の状況

- 面積：54.55平方キロメートル
- 人口：46,878人（令和2年10月末）
  - 男性：21,765人
  - 女性：25,113人
- 高齢化率34.3%
- 第1号被保険者数15,937人
  - 要介護等認定者数 3,601人
  - 要介護認定率 22.6%
- 入所系福祉サービス 21件

## 課題

ボランティア活動が行えるような地域力が弱い





## 合言葉は“ 困った時はお互い様 ”

住み慣れた地域で自分らしい毎日を！



私たち「ちくほう結」は、介護保険事業や障がい者総合支援法の在宅サービスやたすけ合い事業を中心にして、地域での生活ができる限り継続でき「地域で共に生きる」を基本として、  
「その人らしさ」を応援しています。

私たちは、「気配り、目配り、心配り」を心がけ、利用者の方と家族の方々が安心して生活できる毎日が送れるように、活動を続けています。

## NPO法人ちくほう結のあゆみ

2000年 3月	福岡県飯塚市にて「特定非営利活動法人ボランティア ちくほう」設立
2000年 5月	福岡県飯塚市に嘉穂訪問介護事業所を開設
2002年 7月	福岡県田川市に田川訪問介護事業所を開設
2003年10月	田川事業所を田川市新町地区から糶地区へ移転
2008年 7月	主たる事業所を飯塚市から田川市に変更
2008年10月	法人名称を「特定非営利（NPO）活動法人 ちくほう結」へ変更
2010年11月	認知症対応型通所事業所（デイサービス）「永遠（とわ）の家」を開設
2011年 3月	居宅介護支援事業所「ちくほう結ケアプランサービス」を開設
2021年 9月	高齢者向けシェアハウス そよ風の里 開設



- ・本部
- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問介護田川事業所
- ・たすけ合い事業部



訪問介護嘉穂事業所

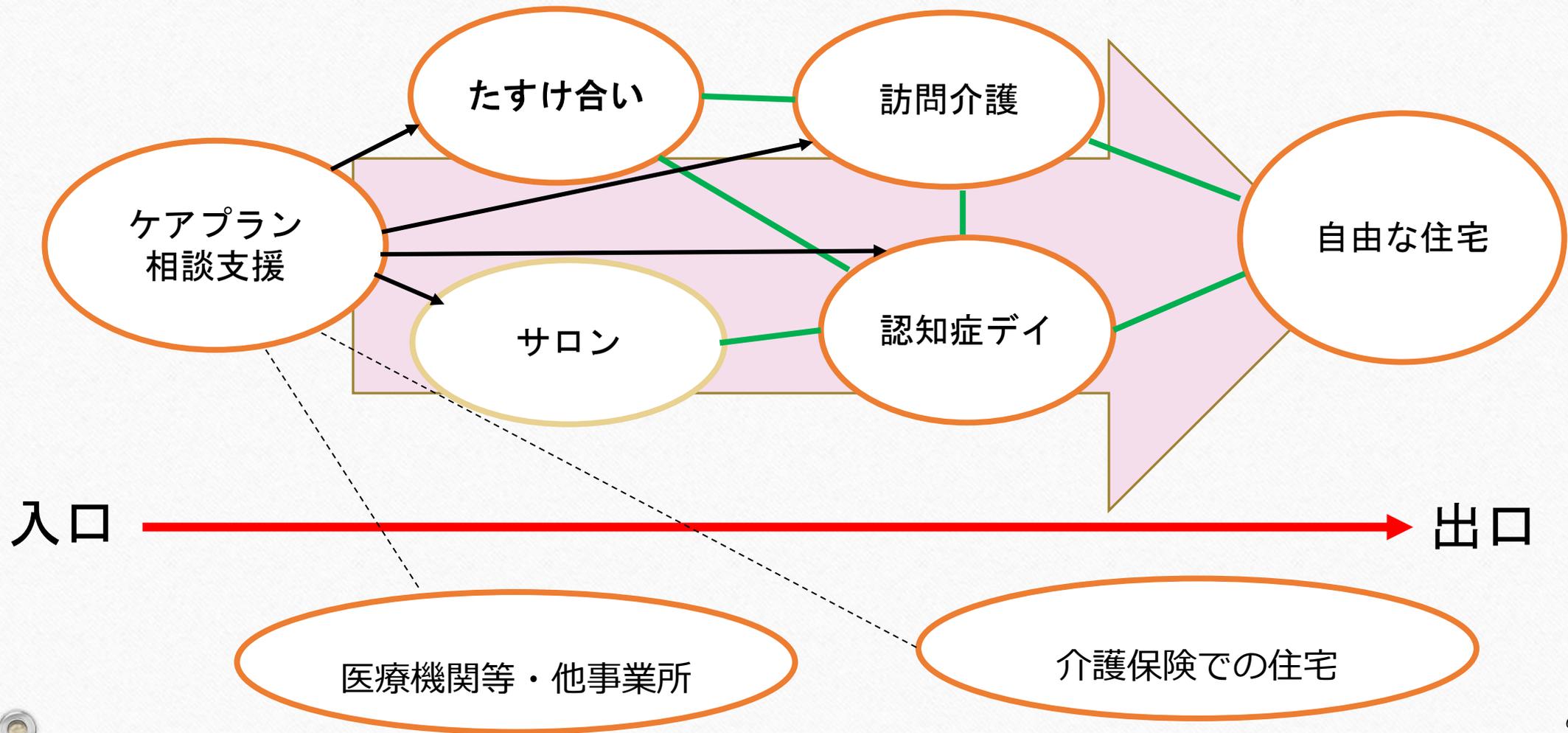


デイサービス永遠（とわ）の家



高齢者シェアハウスそよ風の里

# ワンストップサービスによる安心できる居場所づくり



## 高齢者向けシェアハウスそよ風の里開設の道のり

2019年5月	高齢者向け住宅事業の定款変更
2020年9月	常任理事会・理事会へシェアハウス経営計画提出
2020年10月～	住宅見学等を行う
2021年6月	そよ風の里の貸家交渉
2021年8月17日	高齢者向けシェアハウス開所

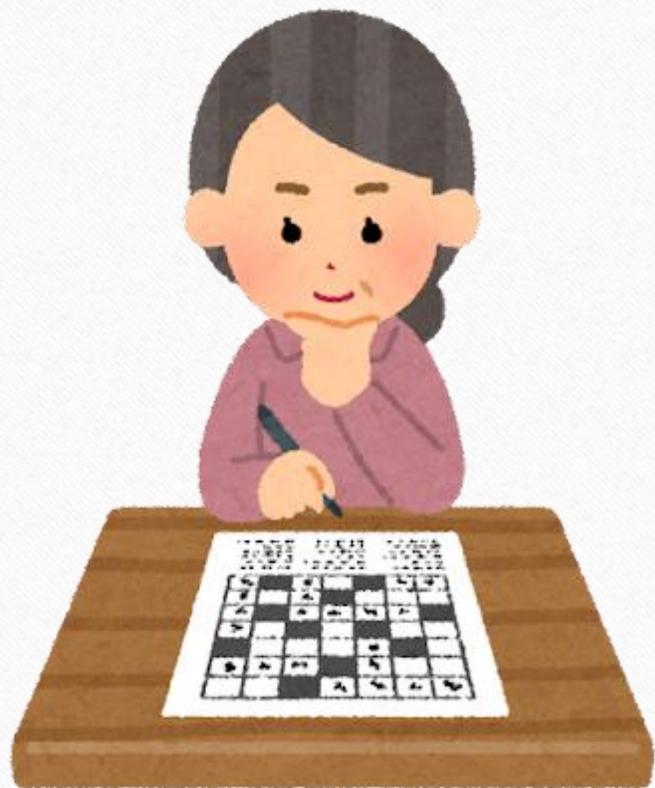
 高齢者シェアハウスそよ風の里を開設したきっかけは？

Aさんとのかかわりから・・・

- ・ 2018年〇月〇日
- ・ B包括支援センターからの紹介で出会う
- ・ 要介護1（80代）・女性
- ・ 住居は賃貸住宅の4F
- ・ 独居
- ・ キーパーソン（以下、KPと表記）  
姪（市外在住）
- ・ 高度な難聴



※画像は、「かわいいフリー素材集 いらすとや」より引用しています([irasutoya.com](https://www.irasutoya.com)) 2022.2.17閲覧.



## <Aさんの1年後>

いつも物を探したり、金銭管理が困難となり、少しずつ物忘れの症状が確認できるようになる。

ちくほう結のたすけ合いサービスの契約書をK Pと交わし、サービスの1つである日用品を購入する預り金制度を利用。

※物忘れ外来を、たすけ合いサービスで受診。

※画像は、「かわいいフリー素材集 いらすとや」より引用しています([irasutoya.com](http://irasutoya.com)) 2022.2.17閲覧.



## <Aさんの2年後>

このころから見当識機能が低下し、日にちやスケジュールの認識が困難となり、訪問サービスの時に不在が多くなる。

探すことはあるが、自宅に帰ってくることはできていた。

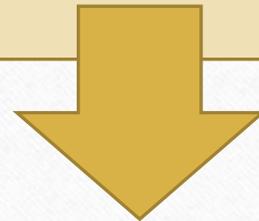


※田川市高齢者等のSOSネットワーク  
事前登録制度に登録。

## <Aさんの3年後>

3年目に入るとAさんの不要な外出頻度が増加し自宅に帰れず、警察から法人に電話があり迎えに行くことがあった。

緊急の連絡先としてバックや服に法人の連絡先を記入していたので、発見した人が直接法人に連絡してくれ保護するなど、在宅が不可能な状態になった。



**KPへ在宅は困難の事を伝え、施設入所を提案**

## KPからの答えは・・・

叔母は今まで戦前に生まれ、人生のいろいろなことを乗り越えて助産師や看護師として一人で苦勞をしてきました。縁あってちくほう結さんの方々と楽しそうに過ごしています。

今が一番幸せそうです。施設に行けば、又、知らない人と過ごすことになり、叔母はそれを望まないと思います。

もし、不幸にも事故にあって命を落としてたとしても、それは寿命と考えます。どうか、最後まで在宅でかかわってもらえませんか？

<問題点>

家族の気持ちもわかるが、ハイリスクな状況を放任するわけにはいかない

<ちくほう結の答え>

目の前の一人をたすけたい。  
その人らしい人生を応援したい。

自由に暮らせる  
高齢者向けシェアハウスを作ろう！

2021年5月から、本格的なシェアハウスの開設へ。  
行動を起こし、8月17日に開設を実現。

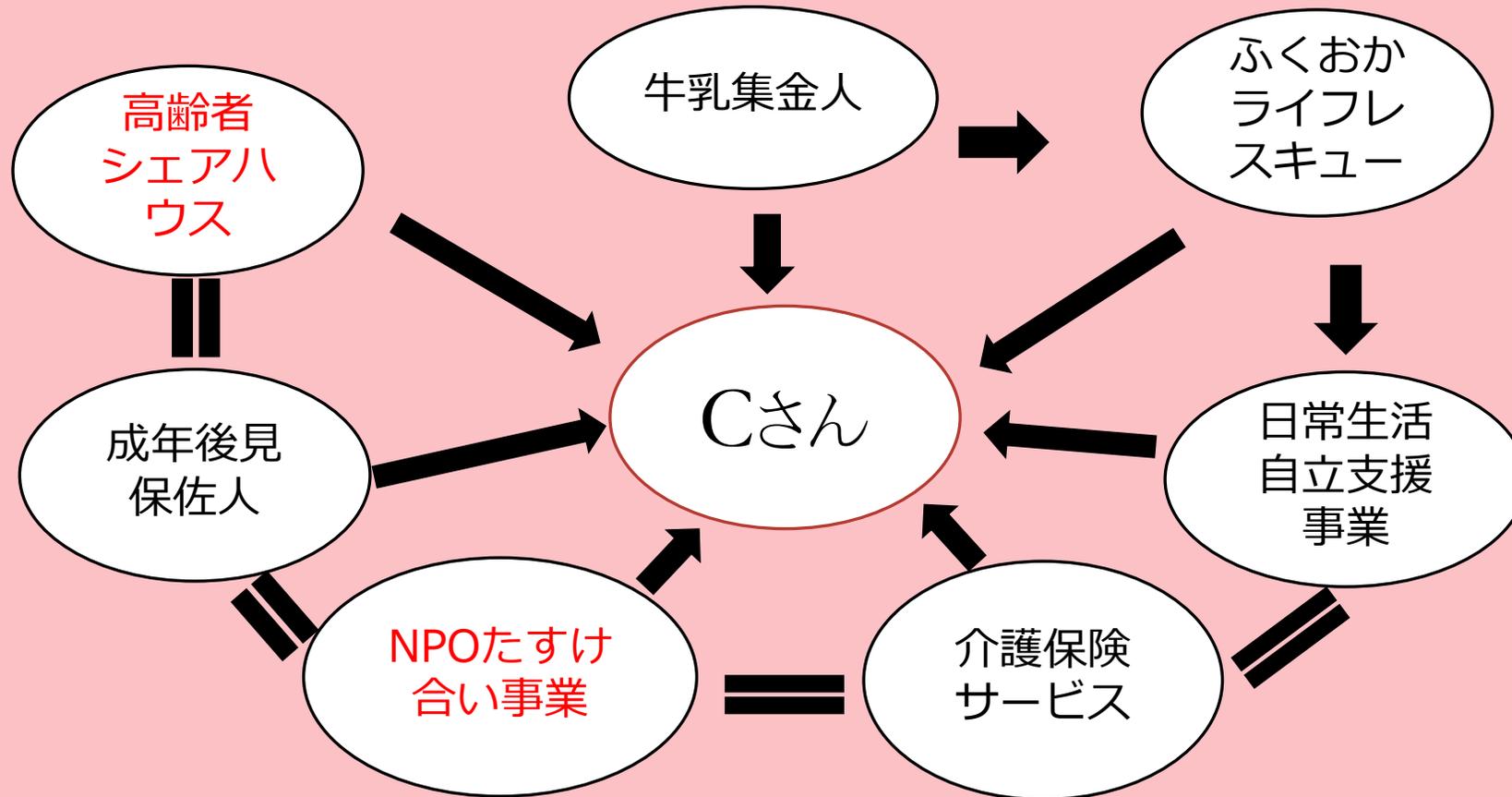
当日は、ここにイメージ図  
を表示します

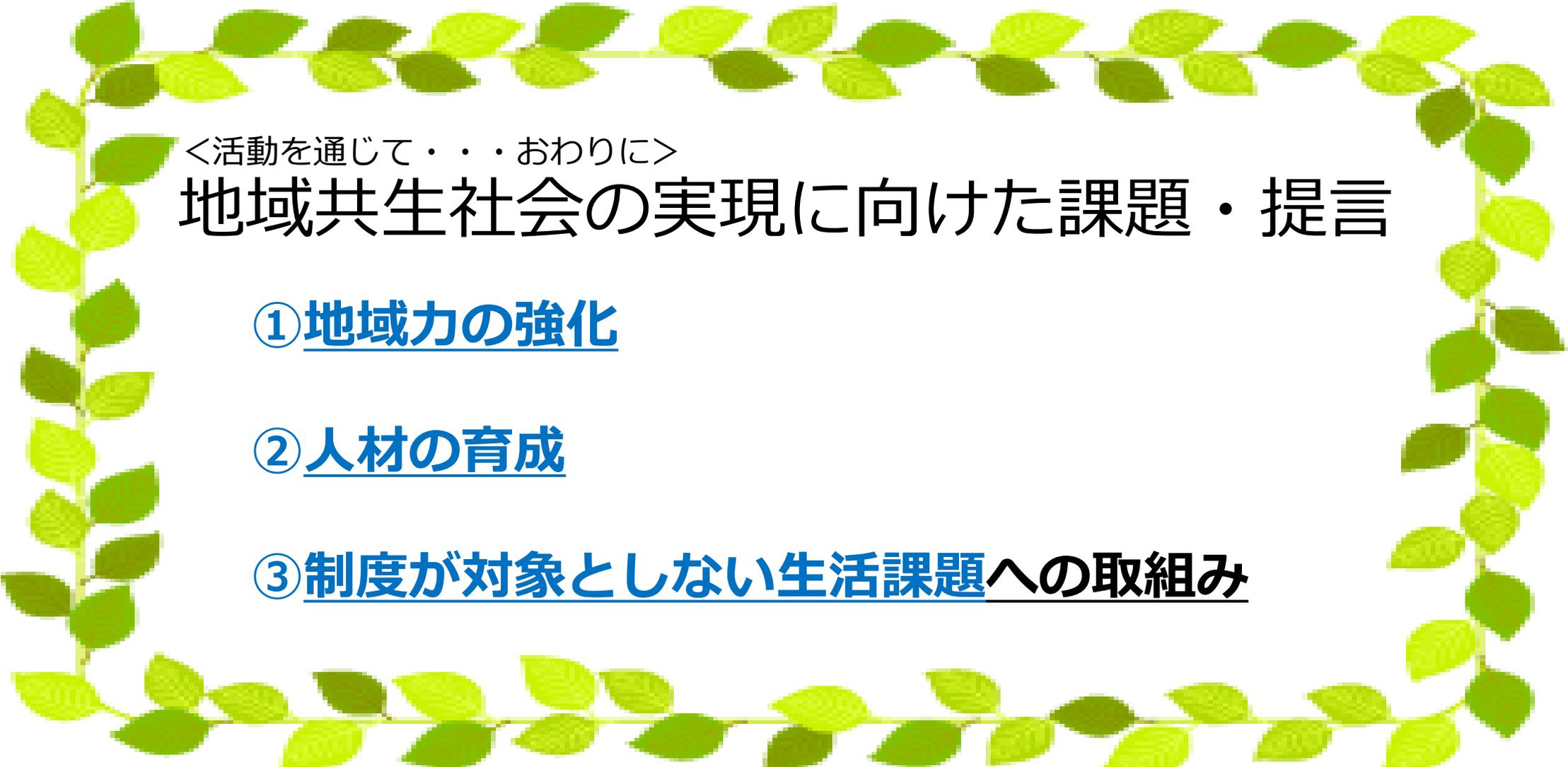
シェアハウスの自室で  
過ごしている現在の  
Aさんの雰囲気  
(※イメージ)

Thanks!



一人の人生を応援したら・・・、  
二人目の人生も応援できました！





<活動を通じて・・・おわりに>

## 地域共生社会の実現に向けた課題・提言

① 地域力の強化

② 人材の育成

③ 制度が対象としない生活課題への取組み

ご清聴

ありがとうございました

